

山元町の将来のまちづくりに関するアンケート 結果報告

(中学生編)

令和7年10月

山元町建設水道課

1. 目的

都市計画マスタープラン(以下都市マスという)の改訂及び立地適正化計画の新規策定における基礎資料として、町民の都市づくりやまちづくりに関する意向等を把握するため、アンケート調査を実施しました。

なお、これらの計画は 20 年後を見据えたものであるため、町の将来を担う中学生・高校生にもアンケート調査を実施しました。

2. 調査対象と方法

アンケートの対象者は、町内に居住する 18 歳以上の町民(以下一般という)、高校生、中学生の 3 通りで実施しました。一般は無作為抽出とし、高校生と中学生は全生徒を対象としました。

調査票の配布及び回収は、郵送と Web アンケートで行い、中学生については、学習用端末を用いて授業の一環として回答することで回収率を高めるよう工夫しました。

3. 実施時期

○一般・高校生：令和 6 年 9 月 3 日～9 月 24 日

○中学生：教育委員会と連携し、授業内で実施

4. 配布・回収状況

配布数、回答数及び回収率は以下のとおりです。

配布数、回答数及び回収率

対象者	配布数	回答数	回収率	備考
一般(18 歳以上)	1,030	395	38.3%	無作為抽出
高校生	266	60	22.6%	全生徒対象
中学生	244	191	78.3%	全生徒対象
計	1,540	646	41.9%	

5. アンケート結果の整理の条件について

単純集計結果については、各設問の無回答は計上していません。なお、地域別のクロス集計については一般のみ整理しています。

6. 調査項目

アンケートの調査項目（一般）

（高校生：●、中学生：▲）

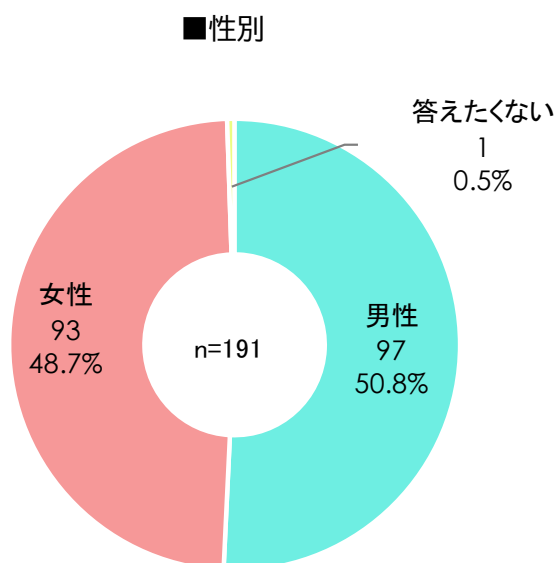
種別	設問	設問の内容	計画への反映
1. 回答者の属性	問1	性別 ●▲	・ 分析のための属性把握
	問2	年齢	
	問3	居住地 ●▲	
	問4	職業	
	問5	通学・通勤先 ●	
	問6	山元町での居住年数	
	問7	家族構成	
2. 町の現在の満足度と将来の重要度	問8	自然環境 ●	・ 前回（H30）都市マスとの比較
		健康福祉 ●	
		都市基盤 ●	
		教育文化 ●	
		産業振興 ●	
3. 生活圏と移動パターン	問9	施設の利用頻度 ●▲	・ 課題の整理
		施設の主な場所 ●▲	
	問10	施設の主な移動手段 ●▲	
		施設のアクセスの利便性 ●▲	
4. コンパクトなまちづくり	問11	駅周辺やお住まいの地域に充実してほしい施設 ●▲	・ 課題の整理 ・ 立地適正化計画の方針
	問12	徒歩での利用圏内 ●▲	
	問13	自家用車を利用しない場合で住みたい地域 ●▲	
5. 山元町のまちづくり	問14	将来に向けた公共施設や行政区のあり方 ●	・ 立地適正化計画の方針
	問15	学校施設の利活用の方向性 ●	・ 実現化方策など
	問16	産業・物流拠点の立地場所	・ 将来都市構造など
	問17	将来不安と思うこと ●▲	・ 課題の整理
	問18	目指すべきまちづくり ●▲	・ 目標・方針
6. 今後の住み替え意向	問19	今後の定住意向 ●▲	・ 誘導区域指定の判断材料
	問20	別の場所に住みたい理由 ●▲	
	問21	転居できない理由	
7. 防災	問22	ハザードマップの認知度 ●▲	・ 防災指針の検討材料
	問23	地域の防災対策 ●▲	
8. その他	問24	自由意見 ●▲	

7. 集計結果

(1) 回答者の属性

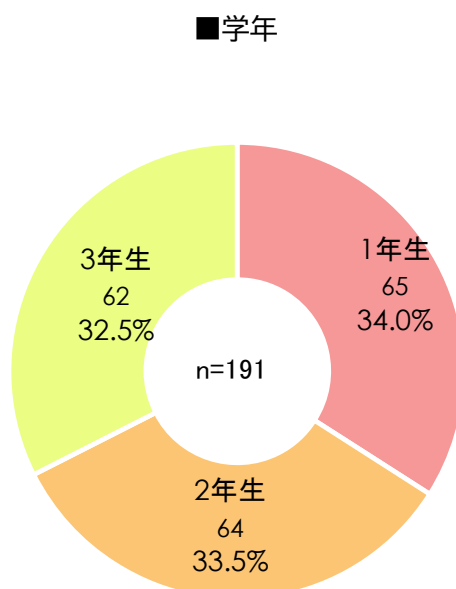
①性別

・回答者は「男性」が 50.8%
「女性」が 48.7%と男女比
はおおよそ半々となっています。



②学年

・「1年生」が 34.0%、
「2年生」が 33.5%、
「3年生」が 32.5%とほぼ
同じ構成となっています。



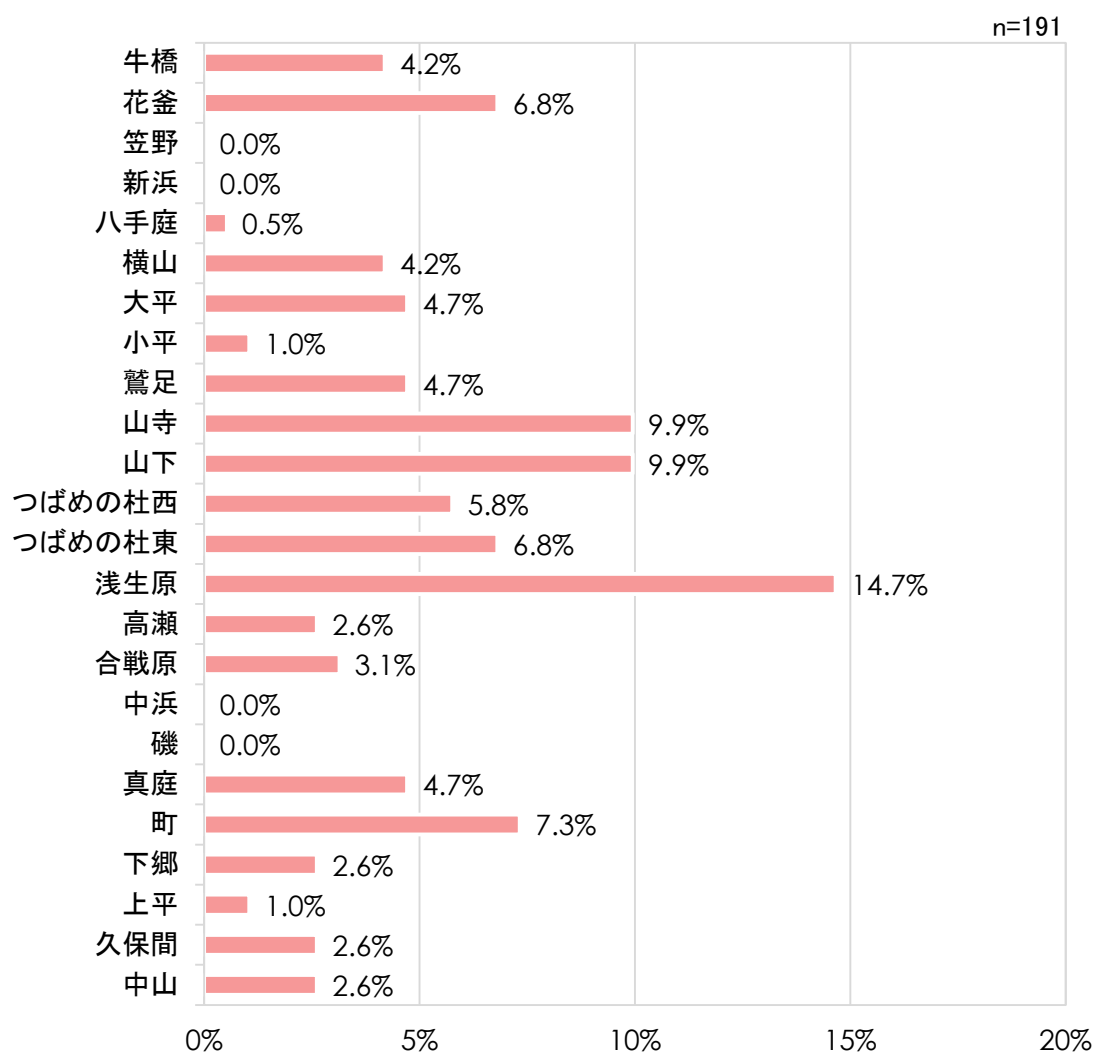
③居住地

- ・居住地は、「浅生原」が14.7%で最も多く、次いで「山下」「山寺」の9.9%となっています。
- ・津波防災区域の第三種地域に含まれている「花釜」「牛橋」でも、一定程度の居住者がいます。
- ・地域別でみると、「山下地域」が79.1%、「坂元地域」が20.9%となり、多くの生徒が山下地域に居住しています。

■行政区の分類

山下地域	牛橋、花釜、笠野、新浜、八手庭、横山、大平、小平、鷺足、山寺、山下、つばめの杜西、つばめの杜東、浅生原、高瀬、合戦原	151 人 (79.1%)
坂元地域	中浜、磯、真庭、町、下郷、上平、久保間、中山	40 人 (20.9%)

■居住地

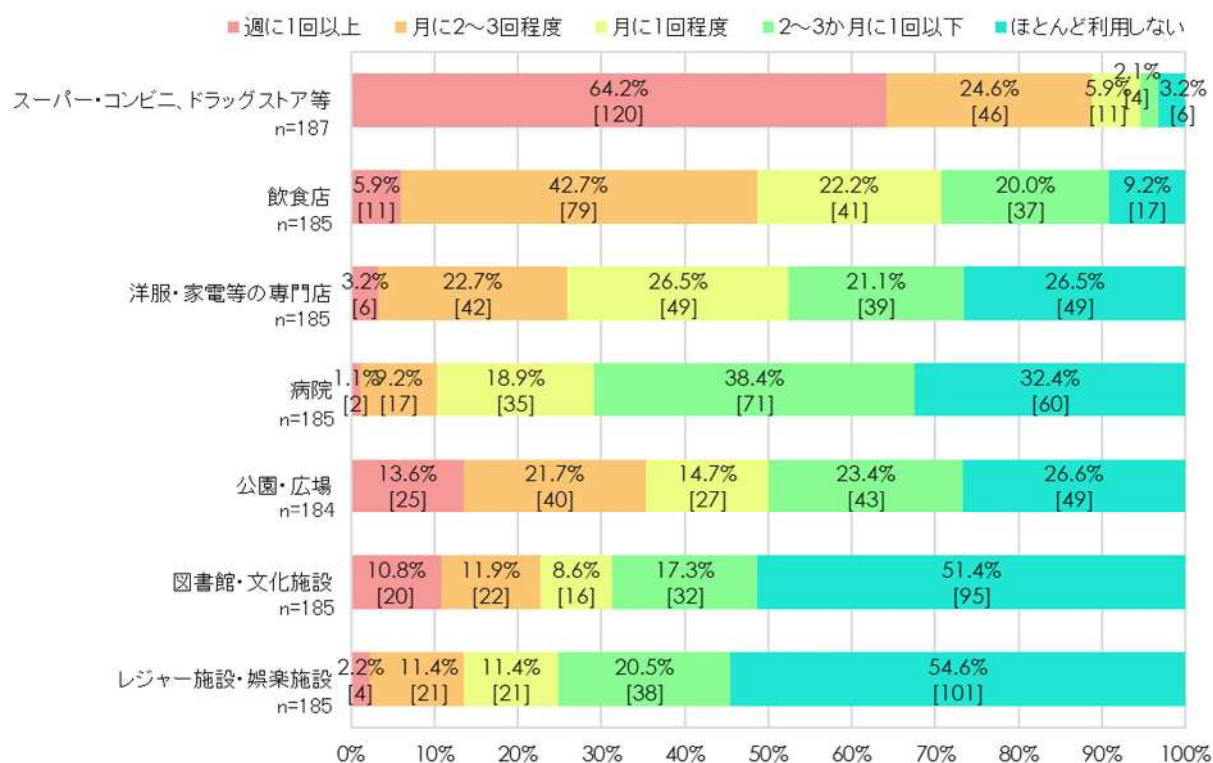


(2) 日常施設で利用する施設や公共交通について

①施設の利用頻度

- ・スーパー・コンビニ、ドラッグストア等、生活利便施設の利用頻度は「週1回以上」が最も多く64.2%です。
- ・飲食店は「月に2～3回程度」の割合が42.7%で最も多いです。
- ・洋服・家電等の専門店は、「月に2～3回程度」「月に1回程度」「2～3か月に1回以下」「ほとんど利用しない」が25%前後でほぼ同じ割合となっており、「週に1回以上」が3.2%と低くなっています。
- ・病院は「2～3か月に1回以下」が38.4%で最も多く、次いで「ほとんど利用しない」が32.4%となっており、利用頻度の低い回答割合が多くなっています。
- ・公園・広場は、「週に1回以上」「月に1回程度」が13%～15%なのに対し、「月に2～3回程度」「2～3か月に1回以下」「ほとんど利用しない」が20%以上となっており、やや高い割合となっています。
- ・図書館・文化施設、レジャー施設・娯楽施設は「ほとんど利用しない」の割合が最も多く、半数以上となっており、

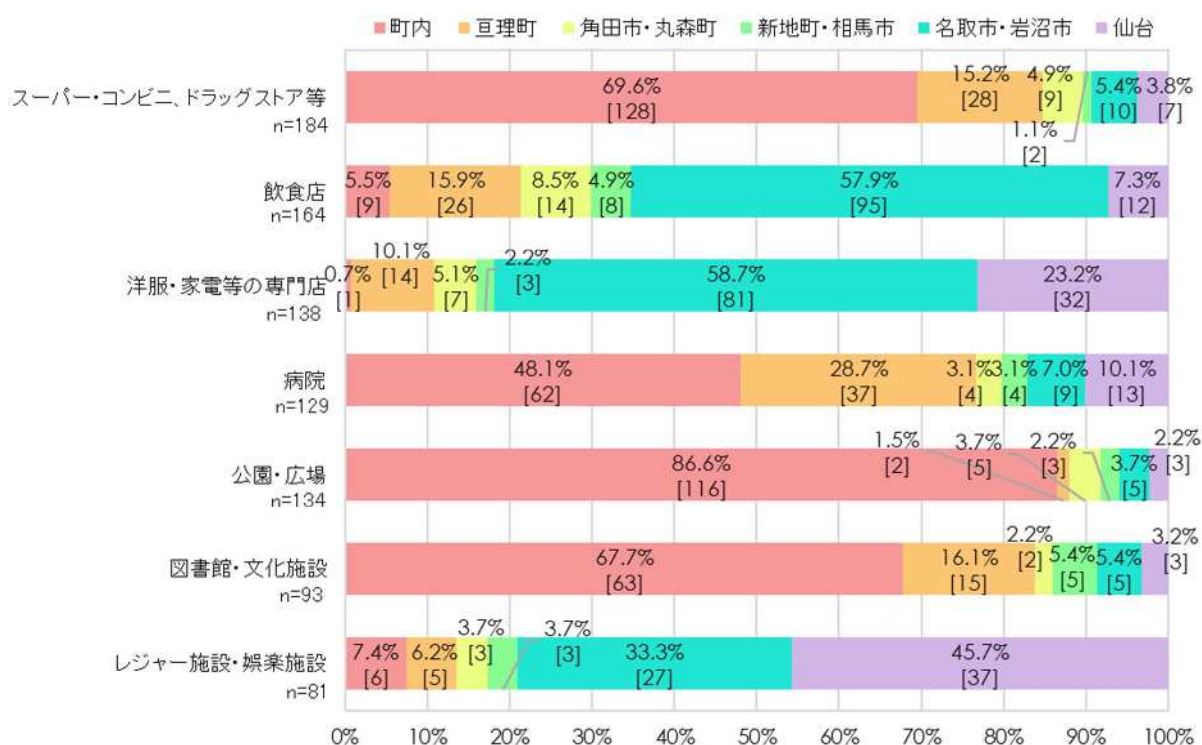
■施設の利用頻度



②施設の主な場所

- ・「町内」利用が多いのは、スーパー・コンビニ、ドラッグストア等、病院、公園・広場、図書館・文化施設となっています。特に、公園・広場は8割以上、スーパー・コンビニ、ドラッグストア等、図書館・文化施設は6割以上となっています。
- ・反対に、飲食店や洋服・家電等の専門店、レジャー施設・娯楽施設の町内の割合はそれぞれ5.5%、0.7%で7.4%となっており、10%を下回っています。
- ・飲食店、洋服・家電等の専門店は「名取市・岩沼市」が5割以上となっています。
- ・レジャー施設は45.7%と「仙台市」が最も多く、次いで「名取市・岩沼市」の33.3%となっています。

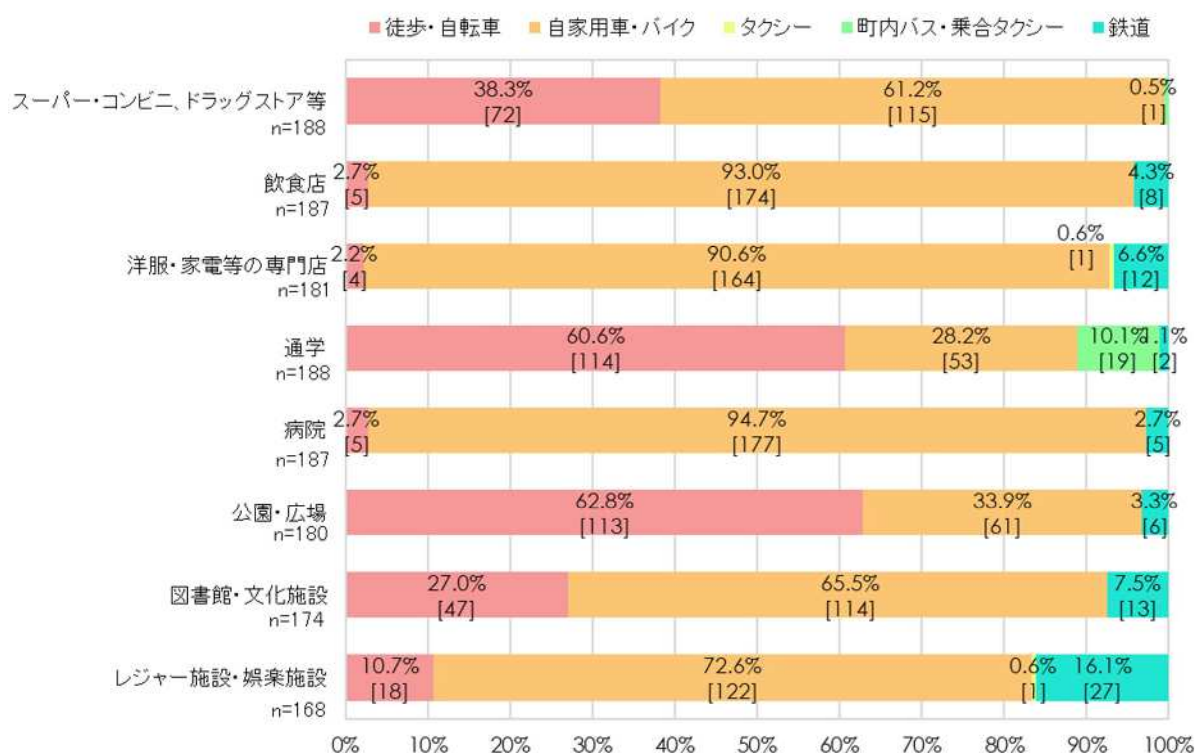
■利用施設の主な場所



③施設の主な移動手段

- ・通学及び公園・広場は「徒歩・自転車」が6割を超え、割合が最も多くなっています。
- ・それ以外の項目では、「自家用車・バイク」の割合が最も多く、飲食店、洋服・家電等の専門店、病院については9割を超えます。
- ・「町内バス・乗合タクシー」は通学時のみに利用されています。
- ・レジャー施設・娯楽施設では、「鉄道」が16.1%となっており、他の項目と比べて「鉄道」が占める割合が多くなっています。

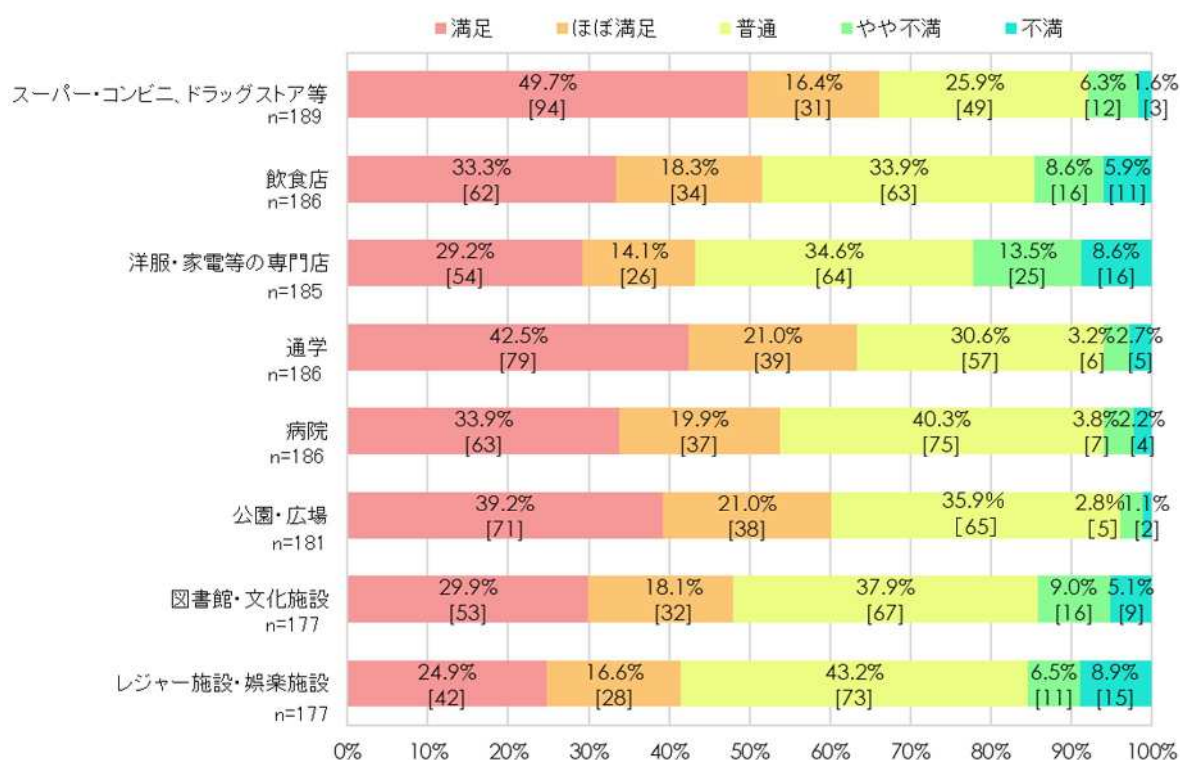
■利用施設の主な移動手段



④施設までのアクセスの利便性（満足度）

- ・全体的に「満足が高い」の割合が「満足度が低い」よりも多い割合になっています。
- ・公園・広場では、満足度が高い割合が特に多く、96.7%と9割以上となっています。
- ・次いで高いのは、スーパー・コンビニ、ドラッグストア等の66.1%、通学の63.4%となります。飲食店や病院でも、半数以上が満足している割合になっております。
- ・他方、満足度が低い回答が目立つ回答は、洋服・家電等の専門店22.2%、レジャー施設・娯楽施設15.4%、飲食店14.5%、図書館・文化施設14.1%となっています。その他は10%未満です。

■利用する施設までのアクセスの利便性

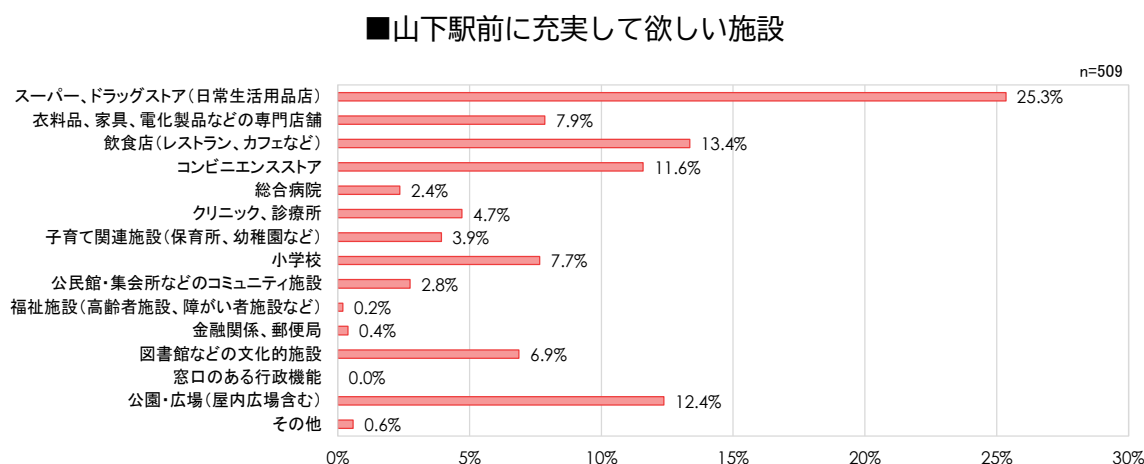


※満足度：各項目について、「満足」「ほぼ満足」の割合が高いものを「満足度が高い」、「やや不満」「不満」の割合が高いものを「満足度が低い」として分析

(3) コンパクトなまちづくりに向けた考え方について

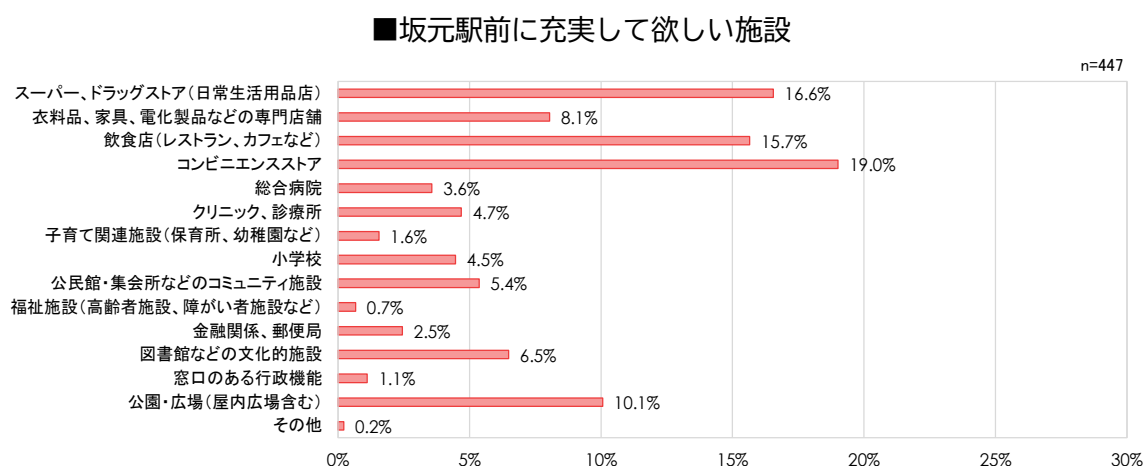
①山下駅周辺に欲しい施設

- ・スーパー・ドラッグストアが 25.3%で最も多く、次いで飲食店の 13.4%、公園・広場の 12.4%、コンビニエンスストアの 11.6%となっており、利用頻度が高い施設での回答と同じ傾向がみられます。



②坂元駅周辺

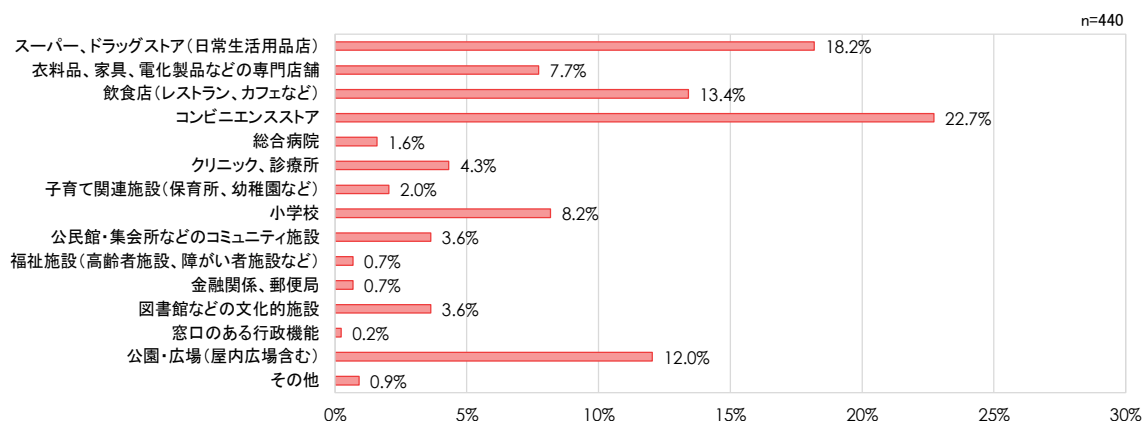
- ・コンビニエンスストアが 19.0%と最も多く、次いでスーパー、ドラッグストアの 16.6%、飲食店の 15.7%、公園・広場の 10.1%となっており、こちらも利用頻度が高い施設での回答と同じ傾向がみられます。



③お住まいの地域

- ・自分の住んでいる地域に充実して欲しい施設では、コンビニエンスストアが22.7%で最も多く、次いでスーパー、ドラッグストアの18.2%、飲食店13.4%、公園・広場12.0%となっており、①山下駅周辺、②坂元駅周辺とも同様の傾向がみられます。

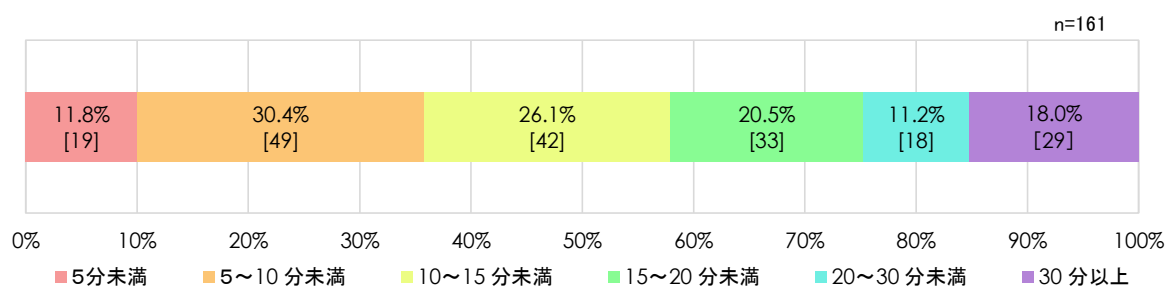
■自分の住んでいる地域に充実して欲しい施設



④日常的に利用する施設について、自宅から何分程度であれば徒歩で利用するか。

- ・「5～10分未満」が30.4%で最も多く、次いで「10～15分未満」の26.1%となっています。

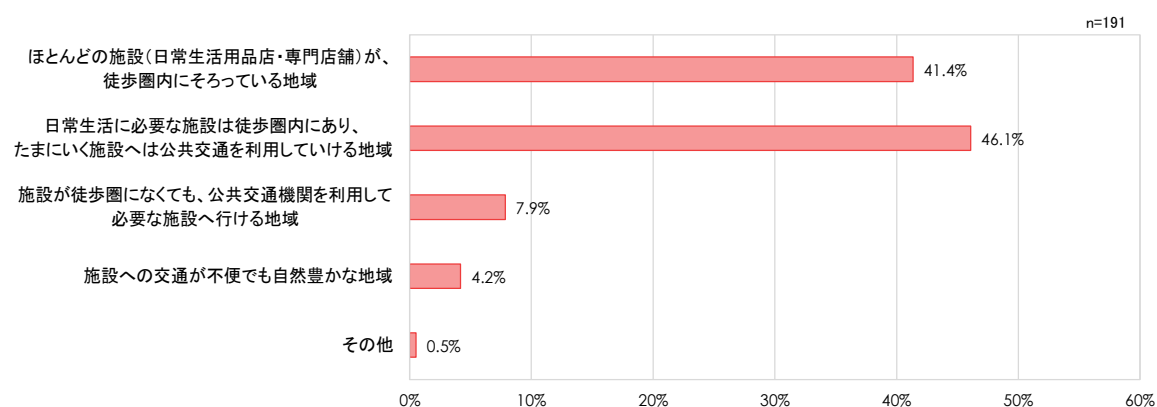
■日常的に利用する施設までの徒歩可能時間



⑤徒歩・自転車や公共交通機関での移動のみで生活する場合の住みたい地域のイメージ

- ・「日常生活に必要な施設は徒歩圏内にあり、たまにいく施設へは公共交通を利用していける地域」、「ほとんどの施設（日常生活用品店・専門店舗）が徒歩圏内にそろっている地域」どちらも4割以上となっています。
- ・「施設が徒歩圏になくても、公共交通機関を利用して必要な施設に行ける地域」が7.9%で、上記2項目と比較して割合が30%以上低くなっていることから、日常生活に必要な施設が徒歩圏にあるかどうかで大きな差が出ていることが伺えます。

■自動車を使用しない場合の住みたい地域のイメージ

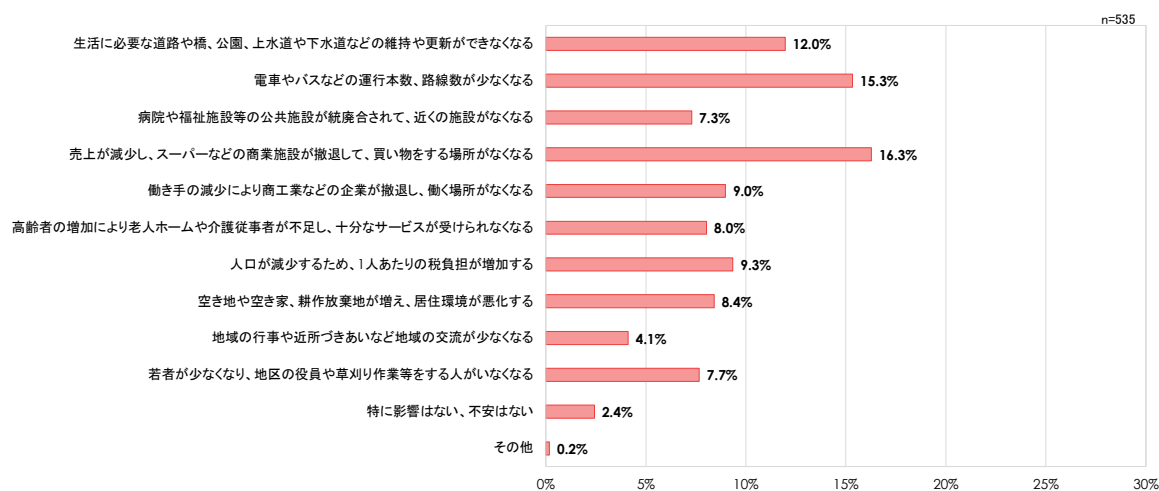


(5) 山元町のまちづくりについて

①山元町に住み続ける際に生活に関係すること（不安なこと）

- ・最も多いのは、「売上が減少し、スーパー等の商業施設が撤退して買物をする場所が無くなる」の16.3%、次いで、「電車やバスなどの運行本数、路線数が少なくなる」の15.3%、「生活に必要な道路や橋、公園、上水道や下水道などの維持や更新ができなくなる」12.0%となっています。

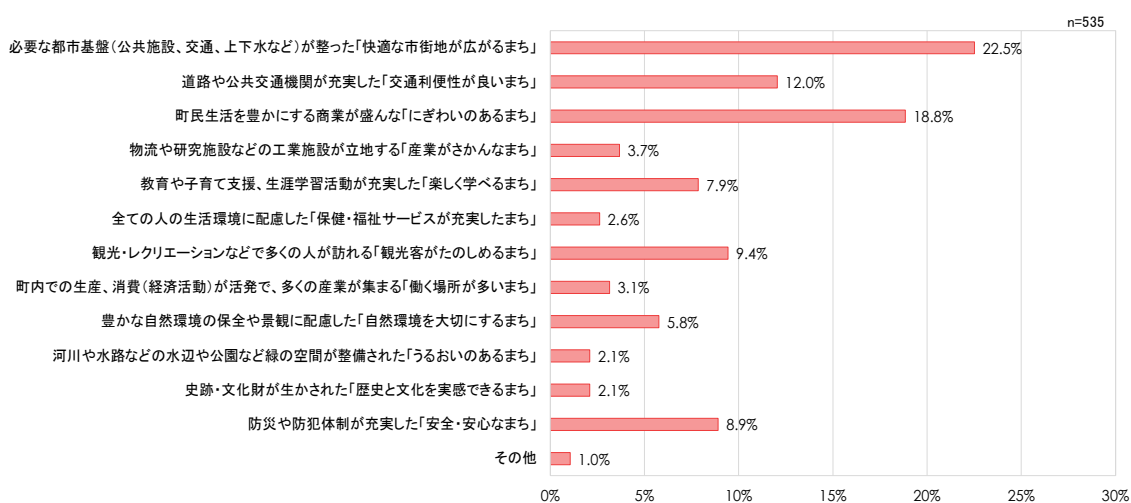
■山元町に住み続ける際に生活に関係すること（不安なこと）



②山元町が目指すべきまちづくり

- ・必要な都市基盤（公共施設、交通、上下水など）が整った「快適な市街地が広がるまち」が22.5%と最も高く、次いで、町民生活を豊かにする商業が盛んな「にぎわいのあるまち」が18.8%、道路や公共交通機関が充実した「交通利便性が良いまち」が12.0%となっています。

■山元町が目指すべきまちづくり

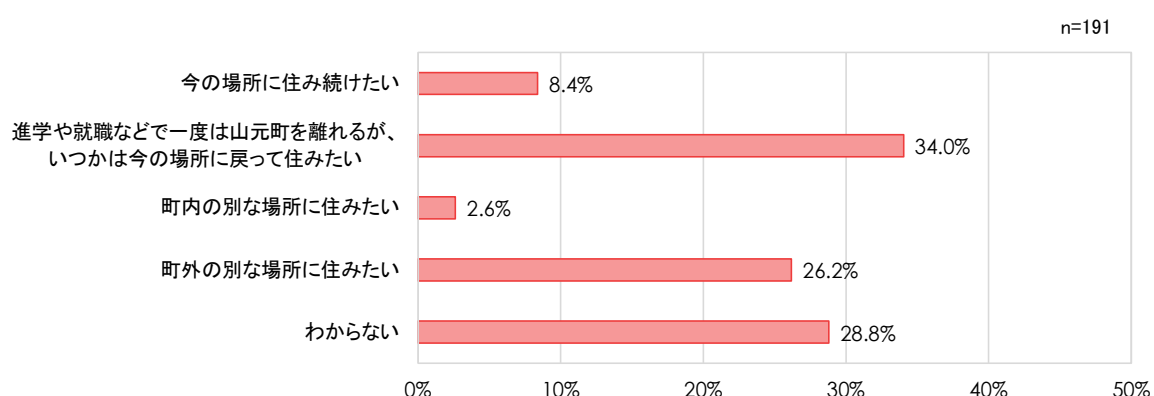


（６）将来住みたい・働きたい場所

①20年後の住まいについて

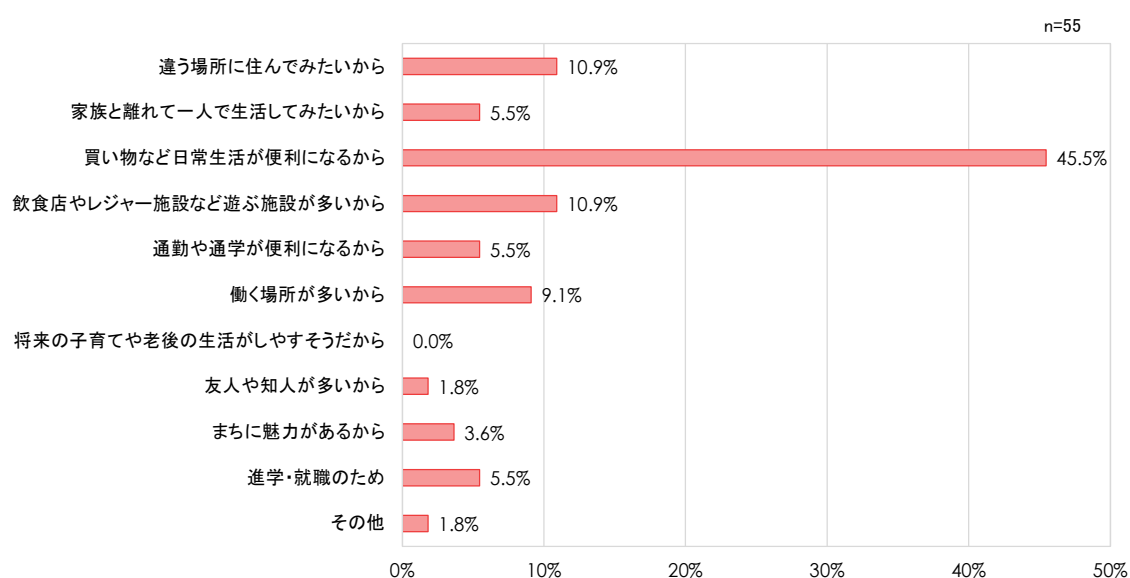
- ・「進学や就職などで一度は山元町を離れるが、いつかは今の場所に戻って住みたい」が34.0%で最も多く、次いで「わからない」が28.8%、「町外の別の場所に住みたい」が26.2%となっています。
- ・山元町に住みたい意向として、「今の場所に住み続けたい」と「進学や就職などで一度は山元町を離れるが、いつかは今の場所に戻って住みたい」の合計は4割以上となっています。

■20年後に住まいについて



- ・前項で「別の場所に住みたい」と答えた理由については、「買い物など日常生活が便利になるから」が45.5%と圧倒的に多く、日常生活の利便性が高い地域への居住を望んでいます。

■別の場所に住みたい理由

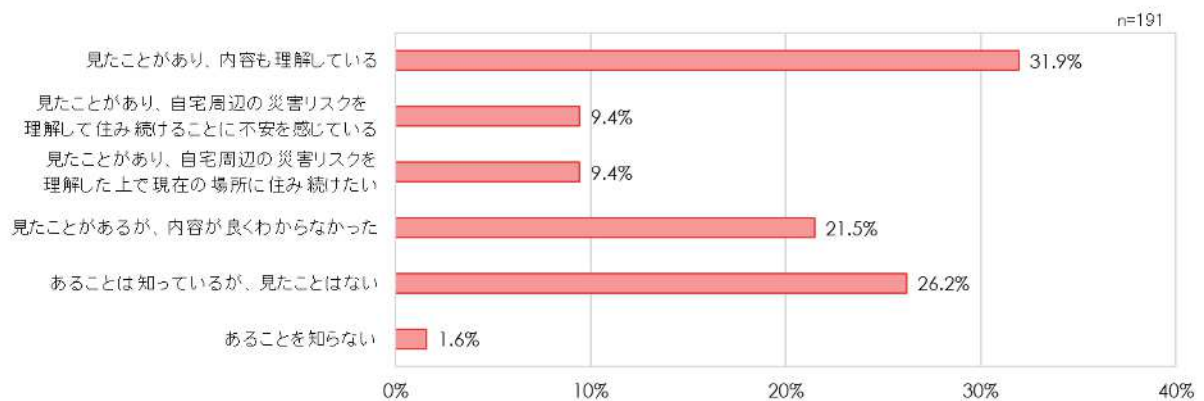


(7) 防災について

①ハザードマップの認知度

- ・「見たことがあり内容を理解している」が 31.9%で最も多く、次いで「あることは知っているが見たことはない」が 26.2%となっています。
- ・「見たことがある」は、全体で7割以上となっています。

■ハザードマップの認知度（内容の理解）



②地域の防災対策について

- ・「建物の耐震化を進めてほしい」が 25.7%で最も多く。次いで、「避難場所・避難路など災害に対応できる施設の整備や対策を進めてほしい」が 21.3%、「津波や高潮などの自然災害を防ぐ施設の整備や対策を進めてほしい」が 17.6%となっています。

■居住地の防災対策の印象

